

事業の背景・目的

沖縄島北部に固有のヤンバルクイナは、移入種マングースの分布域北上に伴い、分布域や個体数が減少し、絶滅が危ぶまれた。保護増殖事業計画の策定により、野生復帰個体の創出や野生復帰技術開発が行われてきた。これまでに、放鳥個体の野生個体との番形成や自然下での繁殖成功例を複数得てきた。しかし、野生復帰個体の生存期間が短いこと、野生個体との比較が不足していることなどから、野生復帰により適した個体創出や放鳥・追跡技術のさらなる開発が必要である。またヤンバルクイナに好適な環境条件を抽出し、それに即した環境改善や創出が求められている。さらに、観光客の増加による生息への軋轢も懸念され、影響の軽減が重要な課題である。

事業の内容

好適な生息環境の把握と改善

- ・ヤンバルクイナに好適な生息・餌環境などを把握し、生息環境改善に役立てる
- ・観光客が生息地を訪れることによる、本種との軋轢を軽減するため、巡視や啓発等を実施する

野生個体と野生復帰個体の比較

- ・放鳥する環境に生息する野生個体の生息状況を把握
- ・野生個体を捕獲追跡し、生存期間、死因、行動範囲等の情報を得る
- ・生存率、番形成、繁殖等に影響する要因を抽出し、野生復帰個体とこれらを比較検討する
- ・より適した野生復帰個体の創出に役立てる



野生復帰個体と野生個体
との繁殖成功確認

得られた成果

国頭村奥間の森林公園周辺において、巡視と観光客への啓発・指導を実施し、ノネコの目視などをやんばる野生生物センターに通報した。今年度新たに野生個体を8個体捕獲し、野生復帰された10個体とともに追跡調査をおこなった。生存率や行動圏等の情報を取得した。前年以前からの追跡個体では、野生の雄4歳以上の1羽と、野生復帰の雌3歳の1羽でそれぞれ繁殖成功を確認した。現在18個体を追跡中で、さらに多くの繁殖に関する情報、生存や行動圏、餌環境等の保全に役立つ知見の蓄積が望める。今年度は、新型コロナウイルス禍で、観光客が比較的少なかったが、来年度は世界自然遺産関連での増加も予想され、より巡視や啓発が必要となるものと思われる。



9月野生復帰した6個体
のその後の行動圏